

1 図2（飲食費のフロー）の見方

飲食費のフローとは、国内に供給（国内生産または輸入。図の左側。いわゆる上流部分）された食用の農林水産物が、食品製造業、食品関連流通業（商業、運輸業）、外食産業を経由して、最終消費（図の右側。いわゆる下流部分）されるまでの流れを、金額で示したものである。

右頁の解説図に沿ってフロー図の左の部分からみると、国内で食用として消費される農林水産物の供給額の総額が S （10.5兆円）であり、その内訳として国内生産されたものが S_d （9.2兆円）、輸入されたものが S_i （1.3兆円）である。

なお、これらの額には、国内で食用として消費されないもの（輸出、農業資材又は工業用原材料等向け）は除かれている（以下に示す加工食品についても同様）。

この国内に食用として供給された農林水産物（ $S = S_d + S_i$ ）のうち、直接、最終消費に仕向けられるものが $S_{df} + S_{if}$ であり、これに流通経費（商業マージン及び国内貨物運賃、点線の囲み） MS_f が上乗せされ、「生鮮品等」（ C_f 、12.5兆円）の一部として最終消費される（「等」については後述）。

国内に供給された食用農林水産物のうち、食品製造業（加工食品）の原材料に仕向けられるものが $S_{dp} + S_{ip}$ であり、これらを購入する段階で流通経費 MS_p が上乗せされる。

食品製造業は、これらと輸入加工食品の一部 P_{ip} 及び二次加工向けの加工食品 P_{dp} （食品製造業の内部に再度投入されるもの）を用い（これらの購入段階で流通経費 MP_p が上乗せされる）、加工食品 P_d を生産している（33.4兆円）。

国内生産又は輸入された加工食品の一部（ $P_{df} + P_{if}$ ）は、流通経費 MP_f が上乗せされた後、生鮮品等の一部として最終消費される。ここでいう生鮮品等の「等」とは、食肉、冷凍魚介類及び精穀（精米、精麦等）の3品目を指す。これら品目については、と畜や冷凍といった製造工程を経るため産業連関表においては加工食品に分類されるが、加工度が低く消費者にも一般に生鮮品と意識されているため、本図における最終消費段階では「生鮮品等」（ C_f ）の一部として扱っている。

また、加工食品の一部（ $P_{dk} + P_{ik}$ ）は、流通経費 MP_k が上乗せされ、加工品として最終消費される（ C_k 、38.7兆円）。

さらに、加工食品のうち $P_{dr} + P_{ir}$ は、流通経費 MP_r が上乗せされて外食産業の食材に仕向けられる。外食産業は、これら加工食品と、流通経費を含む食用農林水産物（ $S_{dr} + S_{ir} + MS_r$ ）を用いて国内生産（ R_d 、25.1兆円）を行っており、同額が外食として最終消費される（ C_r ）。外食はレストランなど生産された場で消費されるため、この段階での流通経費は上乗せされない。

これらフロー図に示した数値と、表4～7で表章している数値との関係は、解説図の後半の通りである。

【解 説 図】

図2 飲食費のフロー(平成23年)

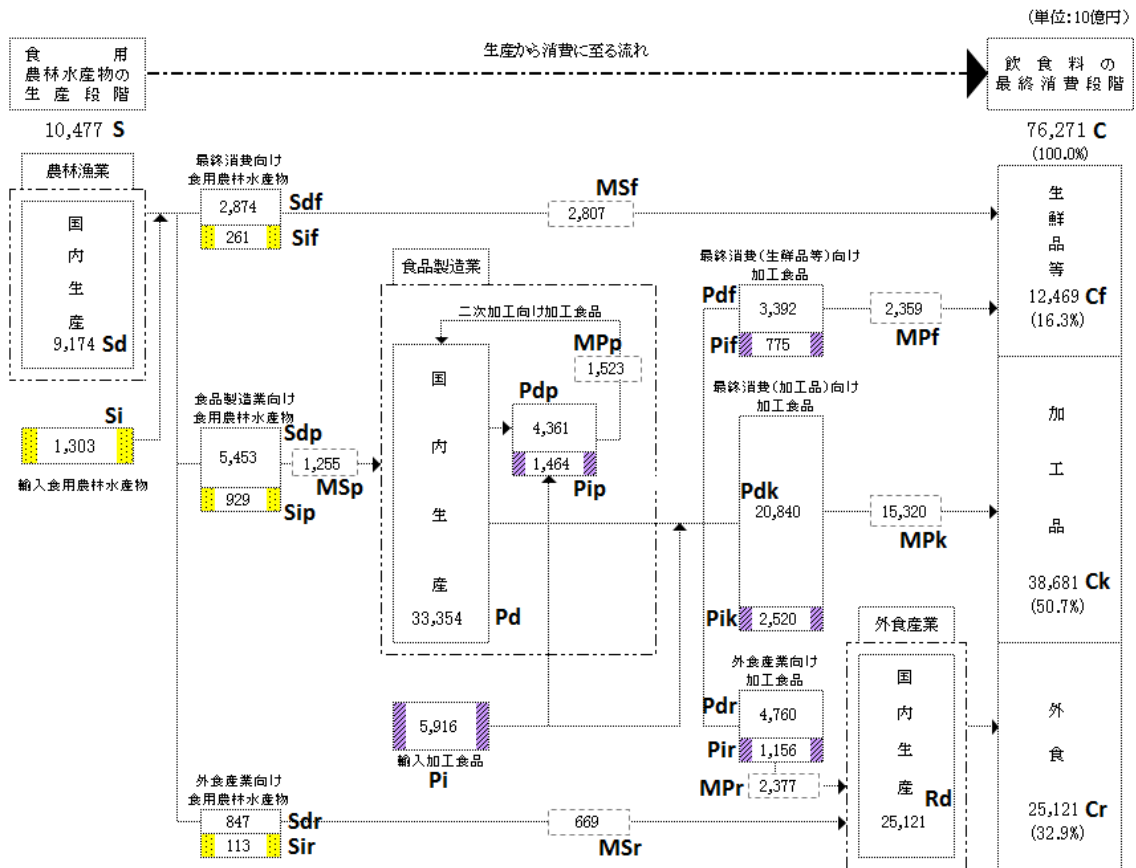


表4 飲食費のフローの推移(抜粋)

単位:10億円

区 分		23年	
生産段階	食用農林水産物	10,477	S = Sd + Si
国内生産	食用農林水産物	9,174	Sd = Sdf + Sdp + Sdr
	最終消費向け食用農林水産物	2,874	Sdf
	食品製造業向け食用農林水産物	5,453	Sdp
	外食産業向け食用農林水産物	847	Sdr
加工食品	加工食品	33,354	Pd = Pdf + Pdk + Pdp + Pdr
	最終消費(生鮮品等)向け加工食品	3,392	Pdf
	最終消費(加工品)向け加工食品	20,840	Pdk
	食品製造業向け加工食品	4,361	Pdp
	外食産業向け加工食品	4,760	Pdr
外食	外食	25,121	Rd
	輸入食用農林水産物	1,303	Si = Sif + Sip + Sir
輸入加工食品	最終消費向け食用農林水産物	261	Sif
	食品製造業向け食用農林水産物	929	Sip
	外食産業向け食用農林水産物	113	Sir
	加工食品	5,916	Pi = Pif + Pik + Pip + Pir
	最終消費(生鮮品等)向け加工食品	775	Pif
流通経費	最終消費(加工品)向け加工食品	2,520	Pik
	食品製造業向け加工食品	1,464	Pip
	外食産業向け加工食品	1,156	Pir
	食用農林水産物	4,731	MSf + MSp + MSr
	最終消費向け食用農林水産物	2,807	MSf
最終消費	食品製造業向け食用農林水産物	1,255	MSp
	外食産業向け食用農林水産物	669	MSr
	加工食品	21,580	MPf + MPk + MPp + MPr
	最終消費(生鮮品等)向け加工食品	2,359	MPf
	最終消費(加工品)向け加工食品	15,320	MPk
費最終消費段階	食品製造業向け加工食品	1,523	MPp
	外食産業向け加工食品	2,377	MPr
	合計	76,271	C = Cf + Ck + Cr
	生鮮品等	12,469	Cf = Sdf + Sif + MSf + Pdf + Pif + MPf
加工品	38,681	Ck = Pdk + Pik + MPk	
外食	25,121	Cr = Rd	

(注:次頁に続く。)

2 最終消費からみた飲食費の部門別の帰属額について

飲食費のフロー（図）からは、飲食費の最終消費額 C がどの部門に帰属しているかをみることもできる（解説図・続きの表 6 を参照）。

農林漁業（国内生産）への帰属額は S_d ($S_{df} + S_{dp} + S_{dr}$) となる。

食品製造業（国内生産）への帰属額は、国内生産額 P_d から使用した原材料費（食材のみ）及び流通経費の合計（食用農林水産物分 $S_{dp} + S_{ip} + MS_p$ 及び加工食品分 $P_{dp} + P_{ip} + MP_p$ ）を控除した額であり、加工経費等（人件費、水道光熱費、包装費など）の額を示している。

食品関連流通業への帰属額は、各段階で発生する流通経費（点線囲み、頭文字が M）の総額である。

外食産業への帰属額は、外食産業の生産額 R_d から使用した食材費及び流通経費の合計（食用農林水産物分 $S_{dr} + S_{ir} + MS_r$ 及び加工食品分 $P_{dr} + P_{ir} + MP_r$ ）を控除した額であり、調理サービス代等（人件費、水道光熱費など）の額を示している。

帰属額とは付加価値よりも広い概念であることに留意されたい。付加価値とは生産額（売上）から中間投入額（原材料費、燃料費等）を差し引いた額であるが、これに対して、例えば農林漁業への帰属額には肥料代や農薬代が含まれており、外食への帰属額には食材費以外の材料費や水道光熱費などが含まれている。

【解 説 図】（続き）

表 5 飲食料の最終消費額の推移（抜粋）

単位：10億円

区 分		23年	
実 数	合 計	78,271	$C = C_f + C_k + C_r$
	生 鮮 品 等	12,469	C_f
	加 工 品	38,681	C_k
	外 食	25,121	C_r

表 6 最終消費から見た飲食費の部門別の帰属額の推移（抜粋）

単位：10億円

区 分		23年	
実 数	合 計	78,271	$C = S + PA + MA + RA$
	農 林 漁 業	10,477	$S = S_d + S_i$
	国 内 生 産	9,174	S_d
	輸 入 食 用 農 林 水 産 物	1,303	S_i
	食 品 製 造 業	24,284	$PA = PA_d + P_i$
	国 内 生 産	18,369	$PA_d = P_d - (S_{dp} + S_{ip} + MS_p) - (P_{dp} + P_{ip} + MP_p)$
	輸 入 加 工 食 品	5,916	P_i
	食 品 関 連 流 通 業	26,311	$MA = (MS_f + MS_p + MS_r) + (MP_f + MP_k + MP_p + MP_r)$
外 食 産 業	15,198	$RA = R_d - (S_{dr} + S_{ir} + MS_r) - (P_{dr} + P_{ir} + MP_r)$	

表 7 食品製造業に投入される食材の金額の推移（抜粋）

単位：10億円

区 分		23年	
実 数	合 計	7,846	$S_{dp} + S_{ip} + P_{ip}$
	国 産 食 用 農 林 水 産 物	5,453	S_{dp}
	輸 入 食 用 農 林 水 産 物	929	S_{ip}
	輸 入 加 工 食 品	1,464	P_{ip}